

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立南郷中学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

国語では、「情報の取り扱いに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」に関する設問で正答率が高い結果となりましたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」に関する設問で課題が見られました。また、問題形式では「選択式」「短答式」「記述式」のすべての設問に課題が見られますが、形式による偏りはありませんでした。

数学では、すべての設問において正答率は良く、特に「データの活用」については高い結果となりました。また、問題形式では「選択式」の設問において正答率が高い結果となりました。

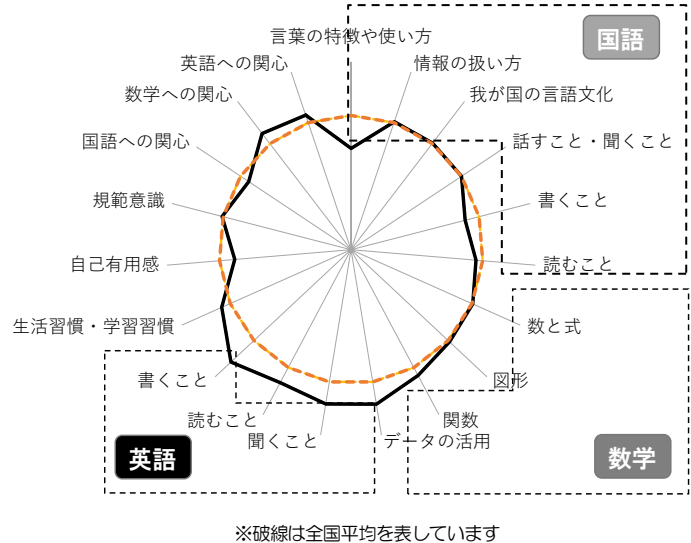
英語では、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のすべての設問において非常に正答率が高い結果となりました。また問題形式においても「選択式」「短答式」「記述式」すべてにおいて正答率が高い結果となりました。

質問紙調査では、「自己有用感」や「国語への関心」に特に課題が見られました。

《強み・弱み》

学力においては、教科のアンバランスが見られました。国語の基礎基本の定着に課題が見られ、英語については非常に高い正答率の結果が見られました。3教科全体的には、例年より高い正答率となりました。生徒質問紙からは、大切である、将来役に立つと答えた教科ほど、正答率が高くなっています。授業では、ICTを良く活用しているといった値が高く、学習の理解や意欲につながっていると考えられます。また、本校の課題であった家庭学習の定着において、今年度は家庭での学習時間が増えていることが今回の結果の要因の1つと考えられます。

生徒質問紙による教科以外の項目で見ると、『弱み』として挙げられるのが、「自分には、よいところがある」といった自己有用感に関する項目の値が低いこと、また読書の時間が少ないといった課題が見られました。『強み』としては、「困りごとや不安がある時に、先生にいつでも相談できる」「人の役に立つ人間になりたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」といった項目に高い値が見られました。こうした結果から、人の役には立ちたいが、そういった経験や成功体験が少なく自信が持てていないことがうかがえます。



【指導の充実に向けて】

・生徒質問紙にもあったように、タブレット等のICTの活用が学習の理解に役に立っていることから、今年度、職員の校内研究では、“タブレットの有効な活用”をテーマに掲げ授業改善を進めています。また、生徒の教科に対する意識が学力の定着にもつながっているため、生活に密着した教材等の活用を教科ごとに工夫していきます。さらには、家庭学習の定着として、個々に任せるのではなく、すべての生徒が取り組めるように、課題の与え方などの仕組みを構築していきます。

・読書の時間が増えることは、読み解く力の向上にもつながると考えます。現在行っている朝読書の時間の継続と図書館の活用の促進を進めていきます。そのために、図書ボランティアの協力を求め、図書室の利用が増えるよう取り組んでいきます。

・自己有用感を高めるためには、上記で強みに挙げた“人の役に立ちたい”という生徒の気持ちを生かしたいと考えます。そこで、今年度スタートしたコミュニティ・スクールを活用し、地域の協力のもと、地域で子どもたちが活躍できる場を設定することで、成功体験を積み自信をつけられるように取り組んでいきます。